

論文要旨

FIRE 達成者の生活満足とその決定要因 – 質的インタビュー分析 –

経営学研究科 経営学専攻修士課程

人材・組織マネジメントコース

小河原 正文

近年、FIRE ムーブメントが注目を集めている。FIRE とは「Financial Independence, Retire Early」の略で、投資などによる資産形成を通じて経済的自由を得て、労働所得に依存しない生活を目指すライフスタイルを指す。日本でも少子高齢化や年金制度への不安、長時間労働や職場ストレス、副業解禁やリモートワークの普及といった労働環境の変化を背景に関心が高まっているが、その多くは達成方法に焦点を当てており、FIRE 達成後の生活や心理的変容、アイデンティティの再構築、生活満足を体系的に検討した学術研究は極めて少ない。とりわけ日本では、FIRE 達成者を対象とした質的研究はほぼ皆無であり、「働かない=幸せ」「FIRE=成功」といった単純化されたイメージも一部で流通している。

そこで本研究では、FIRE を達成した人々の語りをもとに、FIRE 達成前後における価値観の変容プロセスと、生活満足に影響を与える要因を明らかにすることを目的とした。具体的には、FIRE 達成者がどのような労働環境や価値観を背景に FIRE を決断し、その後どのように生活満足やウェルビーイングを形成しているのかに焦点を当てた。日本在住の FIRE 達成者 10 名に半構造化インタビューを実施し、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) を用いて分析を行った。

分析の結果、FIRE 達成者の語りから【FIRE の決定要因とその背景】【FIRE 達成に向けた実践】【FIRE 達成直後の心理的変化】【FIRE 後の価値観再編とアイデンティティ】【FIRE 定着期の生活満足とウェルビーイング】【FIRE の持続可能性と未来展望】の六つのカテゴリと 36 の概念が抽出された。これらは、過去の不適応や将来不安を出発点として、副業・資産形成・家族との価値観共有などの行動によって FIRE が達成され、退職直後の解放感と戸惑いが交錯する段階を経て、価値観の再編と生活満足の形成、さらには老後を見据えた持続可能な人生設計へと至る時間的プロセスとして構成されていた。加えて本研究では、FIRE 達成者の生活満足に影響を与える価値観として、[仕事・労働][資産・お金][時間][健康・メンタル][社会的繋がり][自己実現・挑戦]の六つの観点に着目した。これらは全カテゴリを横断して関連しており、FIRE 決断から実践、達成直後の心理的揺らぎ、価値観の再編、長期的な生活の持続可能性に至る各段階で、個人の行動選択と優先順位を方

向づけていた。

また、本研究では、FIRE の決断が単一の出来事ではなく、日本型雇用システムへの不満や将来の経済的不安、時間的制約と自己実現機会の欠如など、多層的な不満と不安の累積によって動機づけられていることを示した。同時に、FIRE 後の生活満足は、経済的基盤だけでなく、働く意味やお金の価値の再定義、健康維持や人間関係の再構築、サードプレイスやコミュニティへの参加といった社会的つながりによって支えられていた。FIRE 達成直後には解放感と戸惑いという相反する感情が共存する複雑な心理状態がみられたが、時間の経過とともに、対象者は働いても働かなくても良い自由と経済的安心を基盤に、趣味や学び、ボランティアや創作活動など、興味や楽しみを軸にしたサイド FIRE 的な働き方を選択しつつ、心身の充実と社会的関与を両立させていた。

以上の結果から、FIRE は単なる早期退職や経済的自立の達成ではなく、自己の生き方を根本的に再構築するプロセスであり、「働かないこと」を目指すのではなく、「働くかどうかを選べる自由」を獲得し、自らの価値観に基づいた人生を設計する戦略として位置づけられる。本研究は、FIRE という新しいキャリア現象を通じて、「働くことの意味の再考」「キャリアの連続性と再構築」「職場の外に広がるワーク・エンゲイジメント」という三つの視点から、現代のキャリア研究および経営学に理論的・実務的示唆を提供する。さらに、企業の人材マネジメントに対しては、長時間労働の是正や柔軟な働き方の選択肢、金銭的報酬だけに依存しない動機づけ施策の重要性を、個人のキャリア設計に対しては、金融リテラシーの向上とともに、退職前からの時間設計や社会的つながりの準備、FIRE 後の自己探求を通じたアイデンティティ再構築の必要性を示している。さらに社会政策の観点からは、金融教育や地域コミュニティ、サードプレイスの整備を通じて、多様なキャリアと生き方を支える環境づくりの重要性を示唆するものである。

(指導教員：中西 善信)